

令和5年度

第18回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

# 受賞者一覧

(敬称略・順不同)

## 文部科学大臣賞

富田林市立第一中学校 人権サークル (大阪府)

## 優秀賞

【小・中学生の部】 猪苗代町立猪苗代中学校 総合文化部(北海道)

【高校生の部】 奈良県立商業高校 部局たまつえ (福岡県)

【大学・一般の部】 <sup>さんてんいちいち むげんだい</sup>(3.11)∞ 実行委員会 (東京都)

## 特別賞

■ ポテトプロジェクト (兵庫県)

■ 上越高等学校 サッカ一部 (新潟県)

☆第18回SYDボランティア奨励賞には、33都道府県より[小・中学生の部]21件、[高校生の部]30件、[大学・一般の部]27件の計78件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて118年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

# 文部科学大臣賞

## 富田林市立第一中学校 人権サークル

(大阪府)

本校では、人権学習を通じて差別を許さない気持ちや違いを受け入れることを学んでいる。その学びを通じて、学校の中で困っている人の存在や、社会にある矛盾に気づき、何かしたいと集まった生徒たちで人権サークルを結成している。それぞれの学年で、自分たちにできることは何なのかを考え、小さなことでも積み重ねることで、みんなの幸せにつながると信じて活動している。また活動に参加することで、生徒たちにつながりができ、居場所となっている。13年前はすべての子どもが学校生活を安心して過ごせない状況にあり、そのような状況をどうにかしたいと生徒たちと話さずには、自分たちができることはないのか、できることから始めようと活動がスタートした。一年生は先輩が取り組んできたことを聞き、取り組みに協力し、二年生は、教師とともにできることを考え行動し、三年生は、生徒中心に活動できることを目指し、活動を続けている。

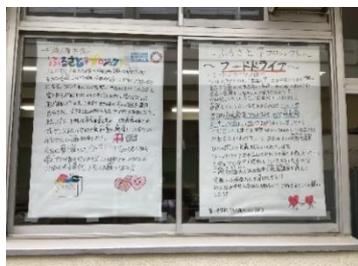
昨年度、子どもたちの貧困と LGBTQ+ の課題に取り組んだ結果、今年度はフードドライブを行うことを話し合った。人権協議会に協力を依頼し、集まった食品を困っている家庭に配布することになった。周辺の幼稚園などにも協力を呼び掛けるためのポスターやチラシ、動画を作成、お祭り等で食品を募ることにし、多くの支援を集めることができた。

クラブ活動とは違い、自主活動サークルとして活動し、それぞれの学年で考えた取り組みや全学年で協力して取り組んでいる活動がある。その他に大阪府人権教育研究協議会主催で行われているフォーラムにおいて他校の実践を聞くことや、取り組みを紹介することで、新しい取組みにつなげている。

地域や講師の方とのつながりで、活動の幅が広がった。ケニアにあるキベラスラムの実態を現地で活動されている早川さんの講演で知り、企業と連携し、キベラスラムへの募金型自動販売機を設置した。また、差別をなくしたいという思いで作られた石碑が取り壊されることを知り、直接市長に石碑を残すための移転のお願いをした。さらに、地域の方から、新たな取り組みの提案をいただくこともあり、新しいことにも挑戦している。他校との交流の機会にも積極的に参加し、本校の取り組みを広く知ってもらい活動の幅を広げられるようにしている。

一年時には人前に出ることが苦手だった三年生の生徒が人前で発表することに慣れるなど、活動を通して、自尊心が高まり、積極的に行動できるようになった。3年間自分たちで、考え行動する中で、多くの方の支えになっているだけでなく、生徒たちの自尊感情も高まり、新たなつながりができ、人権サークルが居場所となっている生徒も多い。また卒業してからも集まって活動している子どももいる。

本校では、継続してエコキャップ運動を実施している。今回取り組んだフードドライブの取組みについても今後も継続していきたいと、二年生から相談があった。人権サークルの活動を今後も全校集会や、他校との交流の中で、広く発信し、人権サークルが「社会を変えていく姿」を見て、周りの子どもたちにも自分たちにも社会を変えていけるという思いを伝え、さらに先輩たちの思いをつないでいきたいと考えている。



フードドライブを実施した際の掲示物



フードドライブで集まった食品



フードドライブで集まった食品の贈呈式



自動販売機設置

【写真は要望により顔をぼかしています】



石碑移転を市長へ依頼



一中校区ペットボトルキャッププロジェクト

# 優 秀 賞

## 【小・中学生の部】 猪苗代町立猪苗代中学校 総合文化部

(福島県)

本校は令和4年に猪苗代町内の3つの中学校が統合し、新たに猪苗代中学校として開校した。統合前の東中学校では、平成23年の当時の1年生がボランティアとして猪苗代湖の清掃活動を行い、その後全校生で水草回収を行うことになり、令和3年度の閉校まで継続された。その意志を引継ぎ、水質保全、水質日本一の奪還を目標として、統合した猪苗代中学校でも継続して水草回収に取り組んでいる。なかでも総合文化部はボランティア活動に積極的に取り組んでいる。

統合初年度に部員全員で自分達の活動について話し合い、大きなテーマとして「猪苗代町をよく知り、貢献しよう。」を掲げ、活動内容を検討した。その中の1つが猪苗代湖の環境保全で、猪苗代湖畔の清掃活動に取り組み、環境保全への思いが強くなった。総合文化部として水草回収ボランティアに参加し、全校生に参加を呼びかけ水草回収に取り組んできたが、猪苗代湖の水環境保全のためには、自分たちのボランティア活動だけではなく、多くの方に猪苗代湖の実態を認知が必要と考えた。

本校では各種教育活動とSDGsを推進している。そこで水環境をよくするためには陸の豊かさを守ることも重要と考え水環境保全と緑化についてボランティア活動を通して実践している。「資源循環」がキーワードで『水草を肥料に、ヒシの実をストラップに加工、肥料でコキアを栽培しホウキへ加工、コキアの種を次年度の栽培に繋げる。』などで、いずれの活動も生徒たちがアイデアを出し合い試行錯誤しながら取り組んでいる。

猪苗代湖の水草回収ボランティアは、ライオンズクラブに水草撤出、堆肥作りの協力を得ている。取組を発信する場として猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全対策協議会主催のフォーラム、町商工観光課主催の磐梯まつりなどで活動ができた。また地域おこし協力隊、磐梯山ジオパーク協議会などの団体と連携している。またPTA主催、親子猪苗代湖清掃活動が本年度計画されており、今後の実施予定と広がりが見込まれる。

水草回収ボランティア活動を継続できていること、その取組が広がっていることが大きな成果と感じ、また自分たちがボランティア活動を通して学んだことを発信することで、活動に参加する方が増えていると実感でき、生徒の意欲に繋がっている。

今後は実践が持続可能となる実践のノウハウを記録し、評価・改善をして計画にフィードバックし、生徒達のモチベーションを維持・向上させるため、町内の小学校や高等学校、地域の学校と協働したボランティア活動の実施と、水質保全・環境保全の重要性を知ってもらうため発信手段の工夫をしていくことでさらに活動を広げ発展させたい。



猪苗代湖畔の水草回収の様子



水草を堆肥とし町の花壇でコキア栽培



コキアを加工したほうき



ヒシ回収ボランティアの様子



ヒシの実ストラップ



町主催ばんたい祭りで環境保護PR活動

# 【高校生の部】 奈良県立商業高校 部局たまつえ

(奈良県)

私たちは、社会的な課題を解決するために何ができるかを考えた。コロナ禍で異なる世代との交流がほぼないことに気づき、多くの人が集える広さがあり、子どもからシニアまで自由に訪れることができる場所で、駐車場も完備されている図書館に着目し、桜井市立図書館と協力し、毎月1回の「未完成カフェ+」を開催することにした。図書館が地域のプラットフォームとなり、カフェやスマホ教室、ワークショップなど、毎月異なるコンテンツを提供し、地域の要望も受け入れながら、みんなで居心地の良いサードプレイスを作り上げている。

「部局たまつえ」とは本校内に模擬株式会社を設立し、中心を担うクラブで「部局」。「たまつえ」は、学校近くの茶臼山古墳で出土された玉杖(ぎょくじょう)を本校は「たまつえ」とよんでおり、それが名前の由来で、地域活性化に取り組むため地域連携や地域貢献に取り組んでいる部活動であり、地域コミュニティの再生、新たなビジネスアイデアの創出のどちらにも「交流できる場所」「多様な人々と出会える場所」「アイデアが生まれる場所」が必要と考え、このニーズにこたえるため「サードプレイス」を創ることにした。この機能を図書館にもたせることで生徒だけでなく地域の人たちと知恵を出し合いながらとびっきり居心地のよいサードプレイスを創ることが目的である。

これまでフードドライブや生理の貧困対策など単発で社会課題に取り組んできたが、全ての社会課題をまとめて取り組める場所があればと考えていた。サードプレイスを創ることで、地域の方も協力して共に社会課題に取り組む事ができれば、共助の気持ちが市内全域に広まるのではと考えた。備蓄パンの収益の半分を生理用品の購入に充て、地域の中学校や公共施設に配布、防災コーナーで備蓄パンの展示や非常用トイレの配布などさまざまな取り組みを一つのイベントで展開することができた。この取り組みは全国的にも珍しく、対話型美術鑑賞や英語多読教室などで異世代の人々が一緒に参加し、想いを共有する貴重な場となっている。

また来場者からの依頼で夏祭りイベントを実施したり、グローブの型取りをした後の革を利用したレザークラフト体験を行い、革のアップサイクルにつなげたり、廃棄食材を使って地元洋菓子店とコラボして商品開発した。さらに学校近くのグループホームの方が作られた野菜を仕入れて一緒に図書館で販売、社会福祉協議会など行政ともつながる事ができた。また小学生のお仕事体験をしようと実施した所、小学生の大人気イベントとなっている。

小学生のお仕事体験というアイデアを具現化し実施したところ、1,500人という集客につながり、私たちのマーケティングは市民の思いに合致していると実感した。対話型美術鑑賞に参加した小学生の反応がとてもよかった。またシニア世代だけでなく若い世代が一緒に参加できるワークショップであることが実証された。トライ&エラーを繰り返しながら「高校生だから」ではなく「真のビジネス」として精度を上げ、今後より充実したものを創りたいと考えている。

今後は地域のニーズを調査・把握し、いろいろな資源を活用し、イベントの内容に変化を持たせることで、お客様に楽しんでもらうことができると考える。またこうした情報を、地域の方が入手できる環境の整備が必要だと感じ、現在、コミュニティサイトの作成(LINE、Instagram)、を考えている。



未完成カフェ+に来ていただいた地域の方



屋台出店



絵の本のひろば



小学生のお仕事体験の様子



未完成カフェ+のイベントで賑わう人たち



生徒開発商品

さんてんいちいち  
【大学・一般の部】（3. 1 1）∞実行委員会

（東京都）

「(3.11)∞実行委員会」は、東日本大震災の被災地及び被災者支援を行っている。年に数回実際に現地に足を運び、被災者の方々に震災当時の状況や、現在の三陸の状況をお聞きする訪問を行い、三陸に出向いて集めた情報を年に数回有楽町地下広場で東京の人々に伝えている。震災で被災した現地企業を支援するために、販売活動や震災クイズや防災グッズの紹介など、災害時に役立つ情報を伝えている。毎年冬に上野公園で行う「三陸なう」でも同様に活動し震災を知らない世代に教訓を伝える貴重な機会となっている。週に1〜2回対面やオンラインでの会議をし、常に災害に備えるという意識を育てることが責務であると考えている。

私達は東日本大震災の被災地及び被災者を支援したいと、2014年に私立高校の有志が立ち上げた。様々な報道を通じ、現地の人々の苦悩が伝えられる中、微力ながらも高校生の気持が結集した。頌栄女子学院、立教女学院、桐朋学園、都立産業技術高専の4校が中心となり、多くの学校の生徒たちが参加している。活動に共鳴してくれたデロイト・マツ社より支援を受け、会議の場所やイベント開催時の備品を提供してもらっている。またこの組織の卒業生が中心となっている大学生ボランティアサークル「Toku」と協同し、活動資金の援助も受けている。

活動の主目的は、震災を風化させないために当時の状況を伝えるだけでなく、被災地の「現状」を伝えると共に現地が必要とする支援を続けていくことである。過去の教訓を伝え、未来につなげる、そんな思いから「3.11∞実行委員会」という名称となった。最大の特徴は、学校や教師の手が入らず、高校生が企画・運営を手掛けていることであり、また何度も現地に足を運ぶことで現地の人々が必要とする支援を行うことが重要と考えて、卒業生が中心となって作られた大学生グループと連携し、高校卒業後も継続的な活動ができるように協力しており、高校生と大学生が継続的に連携を取りながら活動を行っているのが強みである。

結成当初は、「遠隔地に住む高校生が考えた被災地支援」だったが、何度も三陸に足を運び被災した方々から話を聞いたりすることで、報道では見えない被災地の実態を知ることができた。震災から10年以上経ったがこれからも被災地の生の声を日本の中心である東京で伝え、継続的に「本当に必要な支援」を行っていくため、今まで築いてきた現地とのつながりや絆を大切にしていきたいと考えている。

私達の「有楽町イベント」の活動が東北最大の新聞社の河北新報に取り上げられ、震災を風化させないという活動が評価された。しかしまた10年以上経った今も、震災のトラウマに苦しんでいる人々との出会いから、今後は時間が経ったからこそ見えてきた問題にも着目していかなければならないと考えている。

震災から10年以上が経ち、当時の事を覚えている最後の世代が高校の最上級生になろうとしている。実体験としては知らない世代が中心になっても、現地に足を運び、現場を見て、現地の方々に話を聞くことで、当時の状況や現状を肌で感じることができる。毎年3月11日が来る度にメンバー全員で自分達のできる支援を考え、卒業したOB・OGと共に、今後も発展していくグループであること確信している。



石巻にて、亡くなった方々を追悼するためのランタンづくりのお手伝い



宮古市訪問の際、お世話になった現地の方と一緒に



都内公立学校にて、東日本大地震について伝える授業を行った



有楽町イベントにて、被災された企業の商品の支援販売



有楽町地下広場にて現地の方の体験と東日本大震災を伝えた



有楽町イベント後のメンバー達

# 特別賞

## ポテトプロジェクト

(兵庫県)

神戸市西区で農業従事者の指導の下、じゃがいもとさつまいもを生育、収穫し、関西圏の団体に寄付する「ポテトプロジェクト」を行っている。自分のお小遣いを出して種芋や苗を購入し、2023年3月に植えたじゃがいもを夏に収穫、5月に植え付けたさつまいもを収穫し、これまでに250kgを収穫し、約100kgをホームレスの炊き出し、子ども食堂、「チャイルド・ケモ・ハウス」(闘病する子どもたちとその家族の施設)など6か所に寄付した。残りの半分は学校内や地域で販売、収益を次の年の農作業の経費に当てている。私の役割は①農業の基礎知識を学ぶこと、②雑草抜き、追加の液肥などの成育と収穫、③寄付するだけでなく、そのじゃがいもを持って炊き出しに参加すること、④寄付する団体とコミュニケーションを取ることです。

小学生の頃から通っていたホームレスの方々への炊き出しがコロナ禍でできなくなり、2020年に屋外でできる活動として農業ボランティアを始め、農家の方たちや地元の大学生から野菜の作り方を教えてもらい、様々な野菜を収穫できるようになった。収穫した野菜を炊き出しに寄付することを思いつき、初心者でも失敗が少なく、たくさんの量が収穫できるじゃがいもとさつまいもを選んだ。コロナ禍で、学校の奉仕活動も下火になっていたこともあり、新たに高校生でもできて継続していけるボランティアの可能性も追求したいと思い、挑戦した。

一番の工夫は、無農薬の栽培にこだわったことで、地球にとって持続可能な栽培方法はやはり無農薬だと考え、栽培の1年前からミズを使ったコンポストボックスを学校に設置し、液肥と堆肥を栽培に使うことにし、コナツ繊維を加えてできた土壌に500gのシマミズを育て、約500gの生ゴミを餌やりし、1年で計約4ℓの液肥ができた。ミズコンポストを始めたことで無農薬の栽培ができたことへの自信につながった。

私は国際学校に通っているのですが、奉仕活動以外は地域の人達と関わる機会がなかったが、このプロジェクトを通じて、農家の方、大学生、寄付先の団体の方と交流をする中で、住んでいる地域や社会で起きている問題を知り、自分にできることについて考えるようになった。神戸市内の炊き出しにじゃがいもを寄付したことがきっかけで、大阪・釜ヶ崎にもじゃがいもを寄付することに決まった。そして、大阪にも多くの炊き出しを必要としている人達がいることを知った。社会には多くの助けを必要としている人がいて、その人たちの役に立つためには、自ら行動し、様々な人々と積極的にコミュニケーションを取り、社会のニーズを確かめながら行動していくことが大切だと学んだ。

このプロジェクトの成果として①SDGs「飢餓をゼロに」への貢献、②プロジェクトが学校の奉仕活動クラブに広がり、この秋からは100人の生徒と分担して活動できるようになった、③社会の多くの人と関わったこと、である。

これから挑戦したいこととして、1つ目は、プロジェクトを行っている高校生が自らの体験を発表し、つながるためのユースフォーラムを開催すること。それらを有効利用し、高校生でもできるこのポテトプロジェクトを広めたいと考えている。2つ目は、9月に収穫したさつまいもを干し芋に加工し、販売することで、収穫したさつまいもを多くの方により長い時間楽しんでもらうことができると考えている。



さつまいもの苗の植え付けの様子



じゃがいもの収穫



チャイルド・ケモ・ハウスにじゃがいもを寄付を届けた時の様子



炊き出しで、収穫したじゃがいもを使って120人分のカレーライスを作っている様子



さつまいもの収穫の様子



学校にさつまいもを寄付した時の様子

# 上越高等学校 サッカー部

(新潟県)

上越高校サッカー部は、2016年の創部以来、週1回の地域清掃活動と月1回の地域ボランティア活動を8年間行っている。最初は学校周辺や高田駅周辺の清掃が中心だったが、地域の人々からの声を受けてさまざまな活動に広がってきた。具体的な活動内容は、①上越の誇りを守る活動(上越の歴史的建造物や名所の環境整備)、②住みよいまちづくり活動(高齢化による人手不足で苦しむ地域での清掃や除雪活動)、③健康づくり活動(サッカー教室を開催し、体を動かす喜びやJリーガーのプロと触れ合う機会の提供)、④自然を守る活動(直江津海岸でのビーチクリーンなど)、⑤フードドライブ活動(食品の収集、仕分け、配布を円滑にする活動)、この他にも社会課題や共通のテーマに対して地域の人々や企業、団体、自治体と協力して取り組んでいる。

創部当初は5人の部員しかいなかったが、サッカー以外にも生徒たちを成長させたいと考え、誰かの役に立ちたいという志から、週1回の地域清掃活動を始め、地域社会とのコミュニケーションを深め、ボランティアの依頼も増えた。彼らは地域の課題にも目を向け、歴史的建造物や有形文化財の保護も活動の一環として行っている。現在では120名の部員が上越の誇りとして維持発展できるよう使命感をもって活動に取り組んでいる。

ボランティアの依頼や地域の問題の受け付けはHPやSNSを活用し、可能な限り現地に出向き活動を行うことは生徒の成長と地域活性化に繋がると考える。また、ポスターを掲示することでボランティア依頼が増え、試合会場への応援も増えた。さらに活動の分野を特定せず幅広い分野でボランティアを行い、幼児や妊婦など様々な人と交流することも特徴であり、この結果、試合の応援や練習見学に訪れる地域の方々も増え、この取り組みがサッカー部だけでなく地域社会にも良い影響を与えており、地域全体に好循環が生まれ、協力と共感の連鎖が広がっていると考えている。

部員5名から始まったサッカー部が、地域活動を織り交ぜながら成長し、現在は120名の大所帯となり、以前は県大会に出場できなかったチームは今では3位に躍進するまで競技力を向上させることができた。地域活動によって培われた自主性やコミュニケーション力がチームの成長に繋がり、また地域の人々との関係性も深まり、お互いに支え合える関係が築かれた。

今後の課題は活動の終了後にしっかりとフィードバックを行い、次の活動に繋げ、継続的な地域活動、清掃活動やボランティア活動を行い、地域社会との結びつきを増やし、社会全体に良い影響を与えていきたい。将来的には生徒達の自主性を活かし、地域社会に貢献する機会を増やし、地域コミュニティとのパートナーシップを強化し、地元企業とのスポンサーシップの機会も増やし、持続可能な社会の実現を学校の枠を超えて行っていきたい。



有形文化財林泉寺に生い茂る草刈りの様子



フードドライブの活動



上越中山間地域での草刈りボランティアを行いました



地域の除雪ボランティア



子供たち対象のサッカー教室



幼児対象の体づくり教室

# 第18回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催:SYD(公益財団法人修養団)

後 援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

## 1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

## 2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

## 3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

## 4. 選考方法

学識経験者等7名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

## 5. 表彰

**文部科学大臣賞** 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ1名招待)

**優秀賞** 3点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

**特別賞** 2点

クリスタルトロフィー(表彰状)、記念品



## 6. 贈呈式

期日 令和6年2月10日(土)

会場 SYDホール(東京・渋谷区)

## 7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

## 8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

## 9. 締め切り

令和5年11月30日

## 10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 SYDボランティア奨励賞 係

TEL:03-3405-5441 FAX:03-3405-5424

E-mail:info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

### 選考委員

(順不同・敬称略)

明石 要一(千葉大学名誉教授、NPO法人生涯学習応援団ちば理事長)

鈴木 優子(前[学]立教女子学院理事・法人事務局長)

富士道正尋(全日本中学校長会事務局長)

長沼 豊(学校法人茂来学園大日向中学校校長、前学習院大学教授)

山田 一功([社福]ひかりの里理事長、[公社]日本PTA全国協議会元副会長)

御手洗 康([公財]修養団理事長)

山崎 一紀([公財]修養団主幹)

# 過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

## 第1回(平成18年度)

- 文部科学大臣賞** 京都市立京都御池中学校(京都府)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】鏡石町立第一小学校(福島県)  
\*【高校生の部】該当なし 【中学生の部】庄原市立東城中学校(広島県)  
【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク(神奈川県)
- 特 別 賞** ◆国崎翠・吉居夏奈(北海道)◆美幌町青少年育成協議会(北海道)◆喜多方市山都第一小学校(福島県)◆熱海市立小嵐中学校(静岡県)◆加藤ひとみ(岐阜県)◆伊江村立伊江中学校(沖縄県)

## 第2回(平成19年度)

- 文部科学大臣賞** 香川県立多度津水産高等学校(香川県)
- 優 秀 賞** 【中学生の部】木更津市立鎌足中学校(千葉県)  
\*【小学生、一般の部】該当なし 【高校生の部】学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
- 特 別 賞** ◆天草市立城河原小学校(熊本県)◆志布志市立通山小学校(鹿児島県)◆東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都)◆多治見市立多治見中学校(岐阜県)◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」(神奈川県)◆熊本県立盲学校(熊本県)  
◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府)◆ブラジルを美しくする会(ブラジル)

## 第3回(平成20年度)

- 文部科学大臣賞** 学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)
- 優 秀 賞** 【中学生の部】新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)  
\*【小学生の部】該当なし 【中学生の部】2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)  
【高校生の部】更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)  
【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)
- 特 別 賞** ◆尾道市立三幸小学校(島根県)◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)  
◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県)◆富貴中おやじの会(愛知県)  
◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

## 第4回(平成21年度)

- 文部科学大臣賞** 豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】日吉子どもサミット(滋賀県)  
\*【一般の部】該当なし 【中学生の部】名古屋市立はとり中学校(愛知県)  
【高校生の部】中央学院高等学校 生物部(千葉県)
- 特 別 賞** ◆SYD北海道クラブ(北海道)◆横浜市立岡村中学校(神奈川県)◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年(長野県)◆みんなで作る学校 とれぶりんか(大阪府)◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

## 第5回(平成22年度)

- 文部科学大臣賞** 高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】御前崎市立御前崎小学校(静岡県)  
【中学生の部】京都市立嵯峨中学校(京都府)  
【高校生の部】江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)  
【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)
- 特 別 賞** ◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県)◆宮城県立塩釜高等学校地活生化学班 塩釜ぼんぼん(宮城県)◆愛知県立日進高等学校(愛知県)◆京都精華大学ホスピルアートボランティアグループ(京都府)

## 第6回(平成23年度)

文部科学大臣賞	善通寺市立東中学校 ボランティア部(香川県)
優 秀 賞	【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会(東京都) 【中学生の部】港区立青山中学校 お話会(東京都) 【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ(岡山県) 【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)
特 別 賞	◆大和市立渋谷中学校(神奈川県)◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニア コース3年生、2年生(新潟県)◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班 (栃木県)◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ(島根県)◆播磨マリンクルー(兵庫 県)

## 第7回(平成24年度)

文部科学大臣賞	埼玉県立桶川西高等学校 科学部(埼玉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会(群馬県) 【高校生の部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部(広島県) 【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)
特 別 賞	◆喜多方市立第三小学校(福島県)◆V. C. イヤリング(愛知県)◆東京都立大島海 洋国際高等学校 ボランティア部(東京都)◆ <sup>ボランティアサークル</sup> 網地島ふるさと <sup>がっこう</sup> 楽好(宮城県)

## 第8回(平成25年度)

文部科学大臣賞	鳥取大学 障害児教育研究会(鳥取県)
理事長特別賞	石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校(栃木県) 【高校生の部】京都府立宮津高等学校 建築科(京都府)
*【大学・一般の部】該当なし	◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会(北海道)◆福島県立平工業高等学 校 生徒会(福島県)◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部(山梨県)
特 別 賞	

## 第9回(平成26年度)

文部科学大臣賞	いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部(三重県)
理事長特別賞	東洋大学学生ボランティアセンター(東京都)
優 秀 賞	【小・中学生の部】塩尻市立榎川中学校雪かきボランティア(長野県) 【高校生の部】岩手県立久慈工業高等学校(岩手県)
*【大学・一般の部】該当なし	◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS(青森県) ◆末吉っ子支え隊(愛知県)
特 別 賞	

## 第10回(平成27年度)

文部科学大臣賞	熊本市立天明中学校 生徒会(熊本県)
理事長特別賞	千葉黎明高等学校(千葉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】沼津市立片浜中学校 生徒会(静岡県) 【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム(山口県) 【大学・一般の部】西九州大学 ESRDサークル(佐賀県)
特 別 賞	◆渋川市立渋川南小学校(群馬県)◆北海道函館水産高等学校 北のくにづくり2015 (北海道)◆高知県立中村高等学校西土佐分校 地域ボランティア隊Rapport(高知 県)◆国際基督教大学 劇団虹(東京都)◆摂南大学 ボランティア・スタッフズ(大坂 府)

### 第11回(平成28年度)

文部科学大臣賞	豊後高田市立戴星学園(大分県)
理事長賞	神奈川県立吉田島高等学校 草花部(神奈川県)
優秀賞	【小・中学生の部】唐津市立浜玉中学校(佐賀県)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】大森学園高等学校 おもちやの病院(東京都)
特別賞	◆長野県下高井農林高等学校 園芸福祉クラブ(長野県)
	◆九中校区すこやかネット(大阪府)

### 第12回(平成29年度)

文部科学大臣賞	兵庫県立舞子高等学校 天文気象部(兵庫県)
優秀賞	【小・中学生の部】名古屋市立北山中学校 ボランティア部(愛知県)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】東京都立大島高等学校 カメリアユナイテッド(東京都)
特別賞	◆広島県立広高等学校 書道部(広島県)

### 第13回(平成30年度)

文部科学大臣賞	多摩市立東落合小学校 ゴミ出しボランティア(東京都)
優秀賞	【小・中学生の部】北九州市立霧丘中学校 特別支援学級「econnect project」(福岡県)
	【高校生の部】宮城県名取北高等学奉仕活動部(宮城県)
	【大学生の部】BLUE WALK(愛知県)
特別賞	◆名古屋市立工芸高等学校 WEB部(愛知県)
	◆名城大学 ボランティア協議会(愛知県)

### 第14回(令和元年度)

文部科学大臣賞	島根県立大学 献血サークル あかえんぴつくん(島根県)
優秀賞	【小・中学生の部】稲城二中シンガーズ(東京都)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】名古屋市立工芸高等学校 防災チーム(愛知県)
特別賞	◆復興支援東北の物産販売 高校生プロジェクト in 岩見沢(北海道)
	◆宮城県農業高等学校 次世代の被災地語り部ボランティア(宮城県)

### 第15回(令和2年度)

文部科学大臣賞	北九州市立大学 地域共生教育センター 子ども食堂応援プロジェクト(福岡県)
優秀賞	【小・中学生の部】刈谷市立雁が音中学校(愛知県)
	【高校生の部】青森県立名久井農業高等学校 5代目 TEAM PINE(青森県)
	【大学生の部】ベイラー大学 ベイラー・イン・ジャパン(アメリカ)
特別賞	◆名寄市立名寄東中学校 ボランティア部(北海道)
	◆福島県立平工業高等学校 生徒会(福島県)

### 第16回(令和3年度)

文部科学大臣賞	唐津南高校 虹の松原プロジェクトチーム(佐賀県)
優秀賞	【小・中学生の部】姫城中学校 姫ボラ(宮崎県)
	【高校生の部】群馬県立大泉高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)
	【大学・一般の部】東京家政大学ヒューマンライフ支援センター 地域小学校との食育連携プロジェクト(東京都)
特別賞	◆山鹿市立鹿北中学校 生徒会
	◆熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー部(和歌山県)

## 第17回(令和4年度)

文部科学大臣賞 札幌市立宮の森中学校 科学部 科学工作ボランティア (北海道)  
優 秀 賞 【小・中学生の部】陸別町立陸別中学校 ボランティア部 (北海道)  
【高校生部】福岡県公立古賀竟成館高等学校 家庭クラブ(福岡県)  
【大学・一般の部】山口学芸大学 ボランティアサークル 子どもの木(山口県)  
特 別 賞 ◆福島きずなプロジェクト 廣瀬 はる (神奈川県)



## SYD「幸せの種まき運動」とは

—みんなでまこう！幸せの種—をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。

さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。

種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

### 《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という

‘ふれあいの種’

☆どうぞ！という

‘思いやりの種’

☆ありがとう！という

‘よろこびの種’